

## 2009年度 リハビリテーション科研修会(第5回)

今年度第5回目の研修会は、1月13日(水)19時からリハビリ室にて、佐々木塾の佐々木先生をお招きして「嚥下」をテーマに行いました。

今回は、太田川病院・太田川ひがし病院のリハビリスタッフ9名が参加しました。

**嚥下**とは、外部から水分や食物を口に取り込み、咽頭と食道を経て胃へ送り込む一連の運動のことを言います。

私たちは普段何気なく行っていますが、とても複雑な仕組みで成り立っています。大きく分けて5つの過程からなります。

- ①先行期：何をどんなふう食べるかを認識し、決定する時期
- ②準備期：口に取り込み咀嚼し、嚥下しやすい食塊を形成する時期
- ③口腔期：食塊を口腔から咽頭へ送り込む時期
- ④咽頭期：嚥下反射により、咽頭から食道へ送り込む時期
- ⑤食道期：蠕動運動により、食道から胃へ送り込む時期

**誤嚥**とは、咽頭から食道へ入るはずのものが、何らかの原因で、誤って気管に入ることを言います。喉頭蓋という「ふた」が食物の通過とともに降りることで、気管に食物が入るのを防ぐ仕組みになっています。

今回は、実際に食物を使用した体験・観察などを通して、嚥下と誤嚥の仕組み、食事場で介助者が確認・判断すべきこと、摂取方法や食物形態の工夫について、講義と実技講習を受けました。

「アライメント」「重心」「支持面」という3つの視点から総合的に考えていくことが、患者様のアライメントを変化させるために重要であることを学びました。

